



公益財団法人

海と渚 環境美化・油濁対策機構

Clean Sea and Beach Foundation

漁港内における油濁事故発生時の対応

漁業者が港内で油膜を見つけた時は、以下の事に留意して下さい。

第一に、まず通報、所属組織の担当課（者）へ速やかに連絡して下さい。

第二に、対応の基本

① **油処理剤は使わない、洗剤も使わない**

理由は、港内は水深が浅い閉鎖海域であり、水産業に及ぼす悪影響が更に大きくなる、軽質油（軽油、灯油、ガソリン等）への油処理剤の使用は、旧運輸省（現・国土交通省）の定めた使用基準の中で禁じられている。

② **油の拡散を防ぐ**

油は岸壁等に沿って流れ汚染の範囲を拡げるためオイルフェンス等で油膜を食い止める。

③ **油を包囲回収**

万国旗、オイルフェンス型の油吸着材で油群を包囲し、徐々に包囲網を絞り回収。

漁港内の油について

漁港内で見つかる油膜は、漁船が燃料油にしている A重油、軽油 の場合が多いが、他に遊漁船が ガソリン、潤滑油 を流す、工事中の作業船が 作動油 を流す、内陸の事故により排水路から 灯油 等が流入、他所で遭難した船舶から流入する事もあります。これらの油の特徴は次の通りで、漁業者の対応は、**専門家を交えて実施して下さい**。

表 流出油の油種による留意点とその用途

油種	留意点	用途
A重油	これら軽質油は海上に流出すると、風浪の影響で比較的早く蒸発する。しかし、冬季や平穏な港内では残留性が高く、早期の回収が必要となる。	漁船、工場
軽油		漁船、遊漁船、作業船
灯油		暖房用
潤滑油 作動油	殆ど蒸発しない、万国旗油吸着材等で包囲絞って回収が基本	内燃機関、 油圧機器（クレーン等）
C重油	殆ど蒸発しない高粘度油、海水と混じり合いムース化する（含水して超高粘度、容積も3倍位に膨張）、物理的な回収	大型船舶 工場、火力発電所
ガソリン	引火性が高く、風下側は避難、逃げる	遊漁船
原油	大型タンカーが運搬している、引火性、有毒性に要注意	製油所で精製、 火力発電所

漁港内の防除方法について

1. オイルフェンスの活用

岸壁に沿って流れる油をオイルフェンスで食い止める。オイルフェンス内に溜まる油は物理的に回収（油吸着材、強力吸引車、回収装置など）。

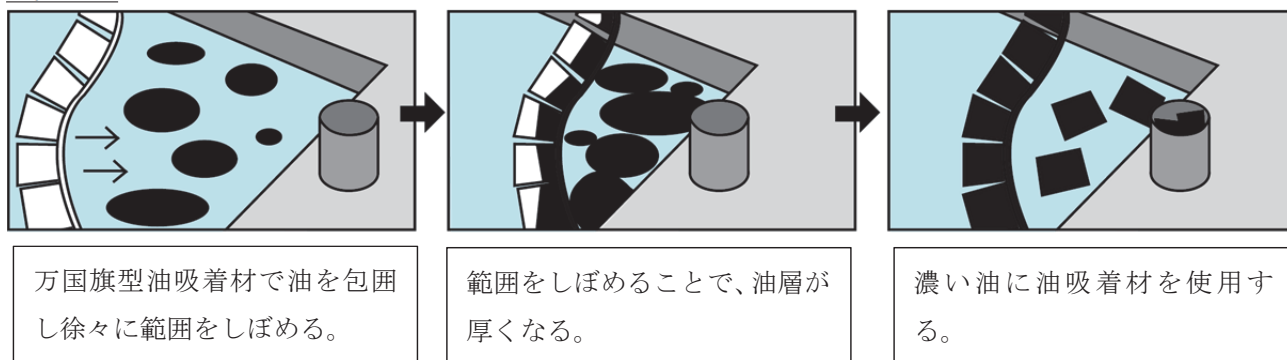
2. 万国旗、オイルフェンス型油吸着材による回収

港内に漂う油群は、漁船により万国旗型油吸着材等で包囲し、徐々にしぼめて回収してしまふ。包囲の中の油量により油吸着材の量を増やす。油を充分吸着した油吸着材は必ず回収する。放置すると狭い岩の中に潜り込んだり、新たな汚染源となる。

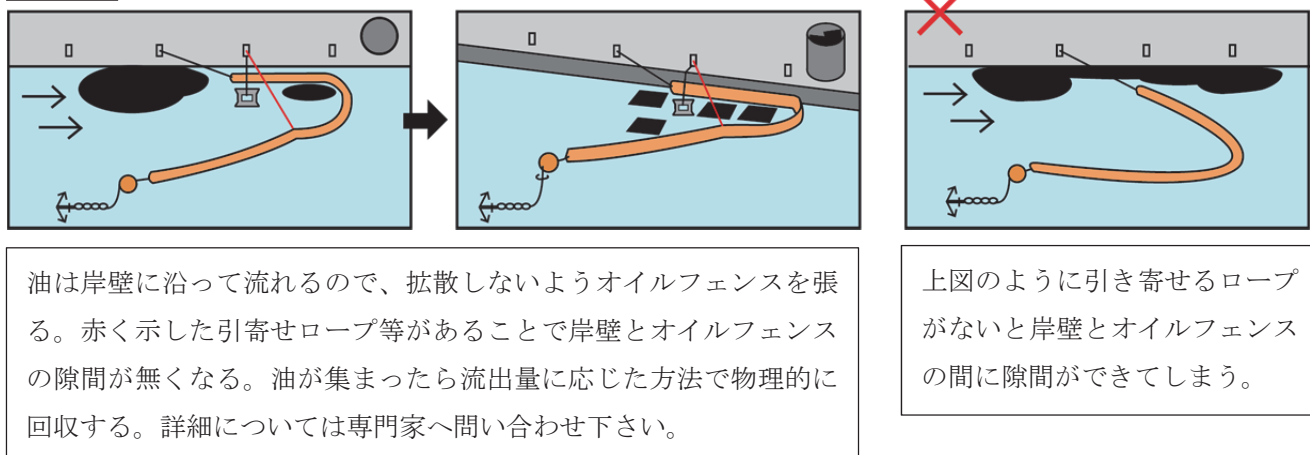
3. 強力吸引車等による回収

地形的な特徴やオイルフェンスにより大量に油が集まった場合、強力吸引車、回収装置等により、直接油を回収する。

作業例 1



作業例 2



作業の記録

漁業者の実施する防除作業は、地元水産業が被る被害を減じる自衛措置でもあります。後日の求償に必要な記録を毎日作らなければなりません。

担当者を決めて、作業日報を作成し、対応に当たった人と船舶、その時間と内容、消耗品、写真、領収書等の記録を残すのも重要な作業です。

(公財) 海と渚環境美化・油濁対策機構
問い合わせ先：03-5844-6551
メールアドレス：office@umitonagisa.or.jp